

会 議 録				
平成28年度第4回 生活支援事業協議体	日 時	平成29年3月7日(火) 14時00分～16時00分	場 所	商工会館大会議 室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委員	高良委員長(東京学芸大学) 近江屋委員(ボランティアセンター) 阿久津委員(地域福祉コーディネーター) 森田委員(また明日デイホーム) 清水委員(民生委員児童委員協議会) 高橋委員(さくら体操リーダー) 第2層コーディネーター 恩田氏(小金井きた地域包括支援センター) 中川氏(小金井きた地域包括支援センター) 金子氏(小金井ひがし地域包括支援センター) 馬場氏(小金井みなみ地域包括支援センター) 雨宮氏(小金井にし地域包括支援センター)		
	事務局	鈴木高齢福祉担当課長、本木包括支援係長、松原、所(介護福祉課)		
傍聴の可否		◎可・一部不可・不可	傍聴者数	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開会 2 議題 (1)報告事項 ① 第7、第8回連絡会議の内容報告 ② 東小金井南口商店会が行ったアンケート調査について ③ 応援ブックの配布時期について (2)協議事項 ① 地域福祉コーディネーターとの連携について ② 来年度の年間予定について ③ (みなみ地域)現在の動きと今後の展開について (3)次回協議体の開催予定 3 その他 4 閉会				

1 開会

2 議題

(1) 報告事項

①第7、8回連絡会議の内容報告

(高良委員長)

それでは、議題のほうに移っていきたいと思います。事務局、よろしく願いいたします。

(事務局)

我々市担当者と、第2層の生活支援コーディネーターと社協の方で集まりまして、協議体と協議体の間に連絡会議を月に1回開催させていただいています。今回よりその報告を資料1に沿ってさせていただきたいと思います。

まず「資源の追加情報の報告について」は、今までも報告してまいりました応援ブックの正式版発行に向けて、情報の更新を今行っております。現在、各2層のコーディネーターの皆様から情報を集めていただき、4月から正式版の作成について着手したいと考えております。

応援ブックの作成については、個人宅の住所や電話番号等が記載されるということについて、公的な冊子物として配布されるということを確認していただくことになっております。

「平成28年の活動報告について」は、4月末までに各コーディネーターに提出していただく予定です。

「第4回協議体の内容について」も、皆で話し合いまして、おおむね話し合った結果が今回の次第に載っている内容でございます。

また、(2)についてですが、第2層協議体やその他会議で得た内容を共有できるのが活動報告としてあげてもらった年1回だけだったので、今後は連絡会議で定期的に共有しあうこととなりました。

②東小金井南口商店会が行ったアンケート調査について

(高良委員長)

事務局のほうから説明をお願いいたします。

(事務局)

これまで協議体でも出てきた買い物困難者の問題について、東小金井南口商店会が来年度より宅配サービスを行うことを聞きまして、既にひがし包括にヒアリングを行ったということでしたが、改めて私の方で話を伺ってまいりました。

中心になって動かれている商店会長さんによりますと、買い物困難者の対策と見守りを一体的に行うことによって、来年度より都の補助金事業を利用して、この商店会をモデルケースと

して、市内全部の商店会に広げていきたいというお考えでした。

今年度に、商店会の近くで330人の方にアンケートをとられたということで、今回、アンケート結果をいただくことができました。内容としては、7割以上の方が「身近に買い物できる環境の充実」を多くの方が挙げており、やはり買い物に困っている方が多いのだという印象を受けました。

今回、市のほうでも買い物困難者への取り組みを議題として、介護保険運営協議会で話し合いを行うのですが、そこに本商店会長の方にもご出席いただく予定です。協議体としてもこういった取り組みのサポートでしたり、協力をさせていただきたいと考えております。

(高良委員長)

一つ確認ですが、このアンケートの対象の方は、東小金井南口商店街にお買い物に来られた方ですか。そうすると、買い物に行けない高齢者の方のニーズを反映し切れていないかと思うのですが。

(事務局)

対象がどこまでなのかはお聞きしてないため、次回の協議体でお伝えさせていただきます。

(高良委員長)

ありがとうございます。いずれにしても宅配をしてほしいとか、そういったニーズはあるということはよくわかります。

あと、先ほどお話が出ましたひがしの金子さんのほうにも御連絡があったということですが、何か追加でありましたら情報をいただければと思います。

(金子氏)

先日御連絡をいただいて意見交換という形をとらせていただきました。

私たちが、普段支援でかかわっている方のニーズについて何か御意見をいただきたいというところで、買物が困られている地域もありますというところをお伝えしました。

あわせて、介護保険のサービスでヘルパーさんを利用される方もいらっしゃるもので、こういった形で宅配をしていただくことにより、新たな選択肢ができてくるのではないかとお伝えしました。

(高良委員長)

ありがとうございます。小金井市さんにお聞きしたいのですが、こういうある特定の団体に対して、市が支援していくことは公平性の点から問題になりませんか。

(事務局)

恐らく、それは医療機関を紹介するときなども同じことで、1カ所だけではなく、複数以上紹介をして、その方に選んでいただくという形が最適かとは思っています。

(高良委員長)

ありがとうございます。とにかく高齢者の方にとって必要な情報を少しでもちゃんと伝えていくというのが非常に重要なことだと思います。一方で、公平性を担保しながら、高齢者の方々にとって、いろいろな情報を得ながら自分で選べるような状況ができればと思いますので、

そのこのところは頭に置いていただければと思います。

③応援ブックの配布時期について

(高良委員長)

では、「応援ブックの配布時期について」をお願いいたします。

(事務局)

前回の協議体で御質問いただいた、シニアのための地域とつながる応援ブックの配布時期について、事務局より回答させていただきます。

応援ブックは、9月、10月に民生委員の皆様が行う、75歳、80歳訪問調査に間に合うよう、8月中には発行する予定でございます。

(2) 協議事項

①地域福祉コーディネーターとの連携について

(高良委員長)

では、協議事項に移っていききたいと思います。「地域福祉コーディネーターとの連携について」ということで、事務局お願いいたします。

(事務局)

社協のほうに設置されている地域福祉コーディネーターと生活支援コーディネーターとの違いについて資料3に図で示させていただきました。図からわかるように、お互いの業務内容について重複する部分もあるため、うまく連携・協力を図っていくことかできないかというところを検討してまいりました。

(高良委員長)

ありがとうございます。では社協のほうからもお願いします。

(近江屋委員)

「地域福祉コーディネーターとの連携について」ということで、社協でも検討させていただいたのですが、まず共催で事業を一つやれればと考えております。

例えば、居場所とかミニデイサービスなどを立ち上げる時のお手伝いをする時に、最初のスタートのところから話し合いを持って、一緒に相談しながら共同でできたらいいのではないかと考えています。

あと、社協のほうも地区担当制とあって、地域福祉係のところ以外の職員も地域を割り当てたので、地区ごとに話し合いの場を設けていってはどうかと思いました。

もう一点連携できたらいいというところが、社協ではサロン等を運営している団体に助成金を出しているのですが、こういったところでも市に協力をもらえればと思っています。

(高良委員長)

役割的に見ると、かなりかぶる気がしますね。だからこそ、社協に第2層のコーディネーターを委託している自治体が多いというのは、その理由ですよね。

ただ、逆に生活支援コーディネーターだからこそ、もっとうこういうところができるということと、あと地域福祉コーディネーターだからこそそういうのが強いよということがあるのだと思います。その強みをお互いに出し合いながら共同していくということは非常に重要なことだと思うのですが、小金井市としては、生活支援コーディネーターに特に役割を期待しているというのがあれば教えていただけますか。

(事務局)

市としては特に「生活支援の担い手の養成やサービス開発」といったところに、特に力を入れていっていただきたいというところではあります。

こちらの応援ブックの方にも、さまざまな資源を紹介掲載しているのですが、もっとこの数がふえれば、高齢者の方にとっても選択肢が増えて充実した生活につながるのではないかと考えております。

(高良委員長)

ありがとうございます。では、そういうことを踏まえまして、どういうふう連携していくかということで、大きく2つ御提案を社協さんのほうからいただいたわけですが、助成金等の資金面のお話につきましては、ここで話をするというよりも、小金井市さんのほうとまず御検討いただいた方がよろしいと思うのですがいかがでしょうか。

(事務局)

今後、その点に関しましては、住み分けということでは検討はぜひさせていただきたいと思っております。この場ですぐにこうしようということは申し上げられないので、今後の検討課題として取り組ませていただきたいと思いますと思っております。

(高良委員長)

では、よろしく申し上げます。

もう1点目の方で、社協側の担当と生活支援コーディネーターとで、連絡会議では定期的にご一緒いただいているわけですが、地区担当の方とは来られていないのですね。実際に今まで社協の地区担当の方と、会議みたいなものでなくても、何らかのお話し合いをされたり、御相談をされたことがある第2層のコーディネーターの方々はいらっしゃいますか。

(阿久津委員)

地域福祉コーディネーターとしては各2層の方たちと、昨年もいろいろ実績はあります。

また連携については、例えばサロンを立ち上げる時に最初から共催として取り組めればというのが私たち社協での考えです。

(高良委員長)

そうすると、別に話し合いを持つとか何とかというよりも、まず目的ありきということですね。今日はそのための協議、連携についての考え方をすり合わせするというところでよろしいで

すか。

(事務局)

そうですね。できれば、コーディネーターと社協さん以外にも、清水さんでしたり、森田さんでしたり、高橋さんも来られていらっしゃると思いますのでご意見を頂ければと思います。

(高橋委員)

地域で居場所を作っていくにあたって、まずは地域の人材発掘みたいなのが一番大きいのかなと思っています。時間と心の余裕のある方たちは多々いらっしゃると思うので、そういった方に協力してもらうことが必要でしょう。

(高良委員長)

そのとおりだと思うのですが、どうやって発掘すればいいのでしょうか。ぜひ教えてください。

(高橋委員)

さくら体操のリーダー養成講座やファシリテーター養成講座などに積極的に出ていらっしゃる方でなどはそういった方が多いのではないかと思います。

(清水委員)

活動の場所については、空き家の有効活用を行っているNPO法人等があると聞いています。そういったところと情報共有を行っていけないかと思っています。

それから、資金の問題では、社協のさくらファンドなどありますがこちらはいつでも申し込みができないのが課題ではないかと思っています。市役所も1年前ぐらいから予算を組むから、こういった資金面での支援というのは難しいでしょう。

人材に関しては、地域の町会や民生委員がある程度の情報はもっています。ファシリテーターやボランティアの人とは協力の輪を広げていくというのも必要だとは思いますがね。

(高良委員長)

ありがとうございます。

社協さんがやられているファシリテーターの養成というのは非常に大きいですね。それが実際に動かれるときに、一緒になってやっていく核になる方々にもなれるのでしょうか。

森田さん、いかがでしょうか。

(森田委員)

まず、目的がはっきりと提示されている話し合いのほうが地域の方々には出席しやすいと思います。

また、社協と包括それぞれで得意分野が別々にあって、趣味的な活動をしている中で、それを助けてもらいたいといったときの相談はどこに行くべきかという話しになると思います。これは私の個人的な考えですが、どちらかというところからの介護に向けた相談は包括で、地域の中の充実した生活を送っていくための相談は社協ではないかと思っています。

それぞれの得られた相談内容に応じて、それぞれがイニシアチブを取っていければ良いのではないのでしょうか。

(高良委員長)

ありがとうございます。お話しいただきましたように、とにかく、社協側とすり合わせを一回したほうがいいと思いますね。まずは、地区担当の方も含めて、その地区担当の方に連絡会議に来てもらうということは可能なのですか。

(事務局)

来て頂くことができるのなら可能です。

(高良委員長)

では、まずは社協さんの方で、今日の話を検討してもらいましょう。

あと、第2層のコーディネーターの方々のほうから、こうやっておいていただいたほうが動きやすいぞというのが何かあれば伝えていっていただければと思います。

②来年度の年間予定について

(高良委員長)

それでは、次に移りたいと思います。「来年度の年間予定について」、こちら事務局からお願いいたします。

(事務局)

去年、今年度と協議体を4回開催させていただきましたが、こちらは事業の立ち上げということで、協議を重ねる事項が多いというのが理由でした。平成29年度はこのまま4回として協議体を行っていくのか、それとも1回減らして協議体を3回行っていくかというところで、皆様に御意見をいただければと思います。

(高良委員長)

ありがとうございます。いかがでしょうか。第1層の協議体の方で3回では難しいとお考えになる方はいらっしゃいますか。皆様よろしいですかね。

では、3回ということで、どうしても何らかの形で確認をしなければいけないとか、検討しなければいけないということがおきた場合には、連絡会議のところに必要な人員が行くという形をとるということではいかがでしょうか。

(事務局)

はい。お願いします。

③(みなみ地域)現在の動きと今後の展開について

(高良委員長)

「(みなみ地域)現在の動きと今後の展開について」、馬場さんお願いします。

(馬場氏)

みなみエリアの目標は、バスに乗らず、徒歩や自転車の範囲で出かけられる拠点をふやすことを決めて活動を続けております。

去年は2カ所のサロンを立ち上げました。まず1つ目は、前原町5丁目にあります工学院専門学校の協力をいただいて、6月から週に1回金曜日に授業の一環を利用して、学生さんと高齢者の交流の場を持たせていただいております。

また、前原1・2丁目に住んでいる有志の方々によって、天神前集会所でおしゃべりサロンを去年の11月から開始しました。

(高良委員長)

課題としては何かありますか。

(馬場氏)

学校の授業で夏休みが終わってから時間が変わるということが去年ありまして、前回の情報を見て来たらやってなかったということが9月ぐらいにありました。何か良い周知方法がないか検討しているところです。

(高良委員長)

皆さん、何かいい案はないでしょうか。

(高橋委員)

さくら体操ですけれども、60代ぐらいだったらスマホを持ってネットで情報をとりますみたいな方も、かなり最近は出てきていらっしゃると思います。一方で75歳以上ぐらいになってくると、かなり減ってくるのかなという感じがします。

(高良委員長)

そうすると、やはり広報とか市報でという方法のほうが安全・確実というところもあるのですね。

(馬場氏)

高齢の方ですと、市報とかを見ることのほうが、もしかすると多いのかと思います。

(阿久津委員)

不特定多数の方が対象なのかで方法が変わってくると思います。特に高齢の方は覚えられないというのもあるので、それに関してははがきを出すという案内は最低限必要かなと思います。また、地域ということであれば、近くの方しか歩いて来られないという想定だと思うので、それは工学院さんのところの張り紙だけでもいいのかと思ったりはします。

(高良委員長)

今後どこまでを対象としていくかということですね。

(馬場氏)

また、検討していきたいと思います。

(高良委員長)

もうひとつのサロンの方で何か課題はありますか。

(馬場氏)

サロン活動費が足りなくて、主催者の持ち出しでサロンが成り立っているという状況になっているのが課題です。

(高良委員長)

ありがとうございます。実際にやられる方たちが赤字分を被っている状況は、本当はよろしくないと思いますが、サロンをやっているとそんなことはあるのですか。

(近江屋委員)

持ち出している方は多いですね。

(高良委員長)

それがやりがいになって満足されていらっしゃるならば、それはいいのかもしれないのですが、そういうのはどうなのですか。財源はないですよ。

(近江屋委員)

社協の方でサロン助成というのがありまして、この前原町の町会長さんが相談にいらして、助成の申請を行いたいとのことだったのですが、うちの出しているサロン助成は飲食には使えないため、お断りしなければなりません。

ただ、ゲストで来てくれたボランティアの人に支払う謝礼とかには使用することができます。あと、印刷物とか、何か小物をつくろうみたいな材料費などに充ててもいいのですけれども、食べ物だけは対象外となってしまいます。

(森田委員)。

赤字の額はどれくらいになりますか。

(馬場氏)

毎回、必ず1,000円赤字です。

(高良委員長)

参加費を上げるのは嫌なのですか。

(馬場氏)

運営されている方が、高齢者の方が気軽参加してもらいたいという意向があるのでこの金額で続けていきたいとのこと。

(高良委員長)

ほかのサロンは幾らぐらいなのですか。

(阿久津委員)

100円から500円くらいですね。

(森田委員)

サロンを開く頻度にもよるかと思いますがね。

(高良委員長)

赤字でも当事者が続けていきたいと言うのであれば、それはもちろん尊重していくということになるのだと思います。

ただ、赤字になっていく部分がどんどん蓄積されていって厳しくなるのであれば、そのあた

りは他の参加者さんと兼ね合いを見ながらお話をさせていただければと思います。

(馬場氏)

わかりました。どうもありがとうございました。

(3) 次回協議体の開催予定

後日日程調整を行うことになった。

3 その他

4 閉会